奥州市環境市民会議
奥州めぐみネット会報
SINCE 2010

第５号
2010.11

会員数 122
2010.11.24 現在

自然栽培のりんご農園見学！

木村秋則さん

生活環境部会（参加者 12 名）は、１０月２９日(金)に世界で初めて無農薬・無肥料のりんご栽培に成功した青森県弘前市の木村秋則さんのりんご農園を見学してきました。

木村さんは、全国各地での講演やテレビ出演など多忙で、この日も不在のため、地元ガイドの方から農園の説明を受ける予定でした。しかし、実際に農園に到着したところ、木村さん本人がりんごの収穫作業をしている真っ最中！！奇跡的に、りんごだけではなく米の栽培方法などの話を１時間近く本人から聞くことができました。

木村さんは忙しいにもかかわらず、我々に対して気さく対応していただき、「環境を壊しているのは農家です。田んぼがきれいになれば、川、海もきれいになり、台風も小さくなっていくだろう。私たちの取組の成果として、岡山県や四国各県では農薬や化学肥料を使用しないで米を栽培する動きが各団体で起こっている。１人１人の力は小さいがこのネットワークを世界中に広げていきたい。」といったまじめな話から、「大根は時計回りに育つことを実際に観察して知った。抜くときは反時計回りで抜くのはそのため。」といった豆知識まで披露していただきました。

当日は終日好天に恵まれました。木村さんのりんご、車内からは紅葉に夕焼けとまさに「赤」一色。参加者は何より実際に木村さんの農園を見学し、直接本人からの貴重な話を聞くことができ、遠距離の行程も短く感じるほど満足していました。

木村さんの農園で初めて実をつけたりんごの木。
弘前大学の研究では根の長さがなんと 30m 以上！！

岩木山の麓にある木村さんの農園の面積は、約 260 アール。

食品循環資源(生ごみ)処理システム見学

資源循環・廃棄物部会（参加者 7 名）と生活環境部会（参加者 10 名）が合同で、10 月 15 日(金)食品循環資源処理システム施設がある㈱リサイエンスシステム東日本（水沢区佐倉河）の見学とそのシステムのアドバイザー（技術提供）の本間光義さんの講演を聴きました。

施設では、食品循環資源(生ごみ)に菌(微生物)を混ぜ・攪拌し、ピットと呼ばれる保管場所に積み上げ、自然発酵により飼料・高濃度アミノ酸肥料・LB 酵素液、魚骨粉等を製造していました。

残さと菌床を混ぜる

ピットに積み上げ

70℃以上で高温発酵

特に高濃度アミノ酸は、土中微生物を増殖させて地力を回復させる効果があるため、農薬や化学肥料を使わない農業経営が行えるとのことでした。また、製造工程で化石燃料を使用しないため、ダイオキシン類や二酸化炭素を発生させない事、脱水・排水の必要が無いため、水を汚す事が無いなど、特に環境に配慮されていると感じました。

講演をしていただいた本間光義さん

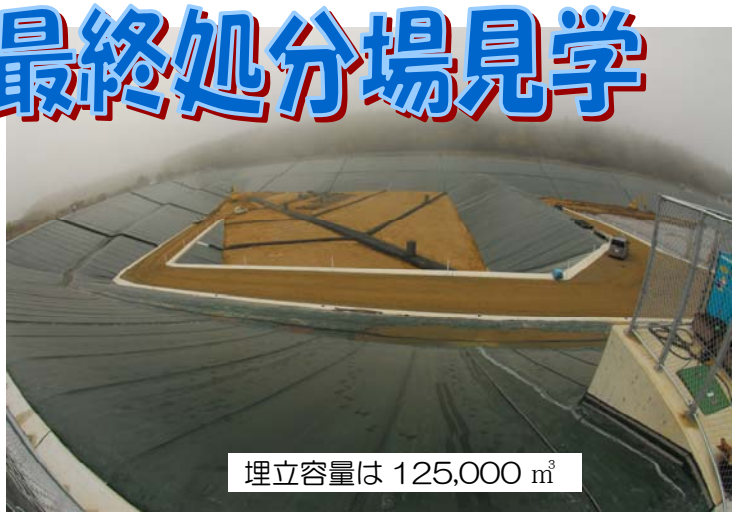
今回視察した施設は、通常は焼却等で廃棄処理される生ごみを飼料や高濃度アミノ酸肥料などの製品に変える事で、ごみの減量を図っているだけでなく、地力を増進させる肥料を製造している環境にやさしい施設であることを知りました。

現在は、加工場や調理施設から排出された生ごみの処理が中心のようですが、今後、家庭から出る生ごみも回収できればもっと焼却されるごみが減るのではないかと思いました。

見学後は、市役所で処理施設のアドバイザーをしている本間光義さんから「健土・健食・健民」について、微生物が健康な土をつくり、健康な食材をつくり、健康な人を作り出すことについて、実体験などユーモアを交えながら講演していただきました。

一般廃棄物最終処分場見学

資源循環・廃棄物部会（参加者12名）では、11月8日(月)に前沢区字石田地内に建設中の一般廃棄物最終処分場の視察と部会議を行いました。当日は、朝から霧がかり、処分場の奥側が見えないほどでした。



←← 黒い線のように見えるのが集水管。
←← 埋立地に降った雨を集水します。
←← 法面の緑のシートの下は、何層にもなっていて、廃棄物の上に降った雨が地下浸透しない構造になっています。

法面の緑のシートの断面

←1 番上の緑色のシートは遮光シートで、下のシートの劣化を防ぐもので、間の針金の様な線は電気で漏水を感知するシステムです。

このように広大な埋立用地なのに、計画では 15 年でいっぱいになるとのことでした。私たち市民が意識してリサイクル等のごみ減量化に取り組み、少しでも長く使用できるように努力したいものです。

会員リレー紹介

会員№団-15／資源循環・廃棄物部会所属

『 衣川地域婦人団体協議会 』　　松芳トミ子さん

私達の団体は、地域に根ざした活動を目的に衣川地域の女性が集い、楽しく活動を行っています。活動の中では、特に子育て支援に重点を置き、小学校に出向いて月１回の本の読み聞かせや家庭科指導などを行っています。

家庭科指導の中では、子ども達が育て・収穫したジャガイモやカボチャを使っておやつを作って一緒に食べたり、また、野外散策で集めた野花や山のつるを生かしてリースを作って文化祭に展示したり、また、食べられる草花を調理して一緒に食べたり…と、子ども達とのふれあいを通して、楽しく活動をしています。

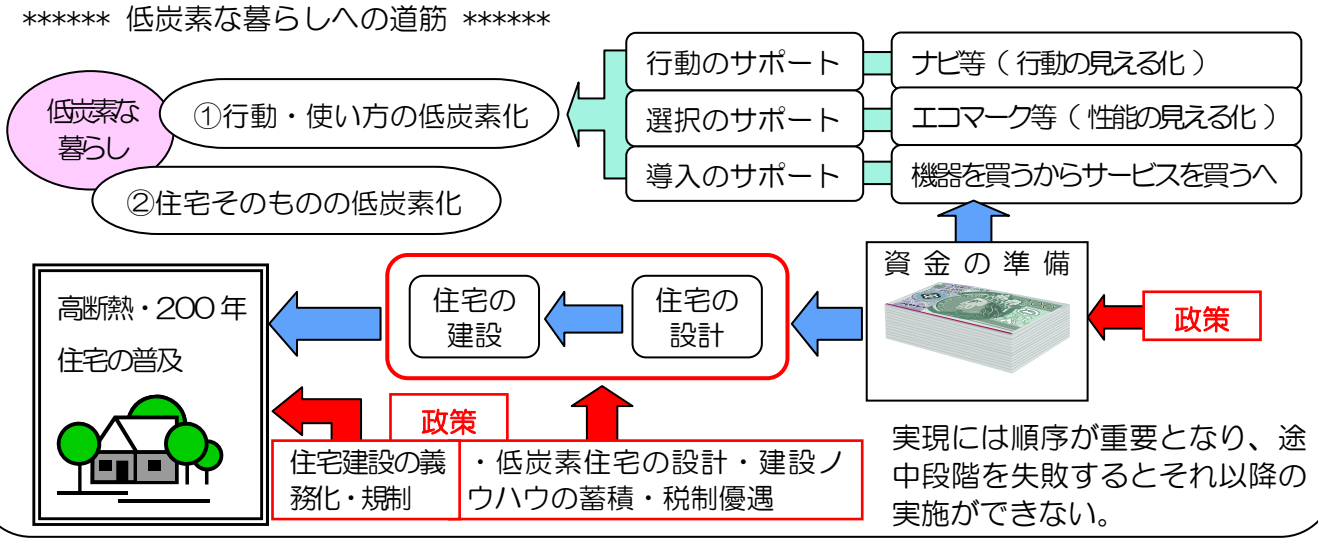
こうした活動の中で、子ども達が地域の大人とふれあい、また、地域の自然や農業などとふれあいながら、地元やその環境などを大切に思う気持ちと共に大きく育ってくれることを願っています。

「低炭素社会に向けた１２の方策」　パート４

省エネ・省 CO_2 診断士、低炭素農業アドバイザー、低炭素アドバイザー資格制度、住宅・建築物環境性能ラベリング制度、トップランナー制度、低炭素農業認証制度、国際相互認証制度、環境配慮型森林経営の認証制度、企業別・事務所別 CO_2 排出情報公開制度、排出削減目標に基づく炭素税と排出量取引制度、製品環境情報の規格化・カーボンラベリング認証制度・・・これらが 12 の方策で謳われている資格や制度です。この他に促進事業、支援事業がありそれらに伴う税制、補助金があります。むろん評価となる基準の確立、見直しもあります。これら基礎となる部分をここ10年内を目途に考えられています。

では、ある程度基準や制度が確立してから行動に移せばよいかといえばそうではありません。確立してからでは時間と費用がかかるため、走りながらやりましょうと促しています。車両や機械装置は新しいほど省エネが進んでいますから、どんどん新品を使うことを前提に「トップランナー機器をレンタルする暮らし」を提唱しています。

特に運輸部門は顕著で、ここ10年内実現に集約されています。私たちは電車に乗りながらまた車を運転しながら、現在の CO_2 排出量を見ることが出来るようになります。



実現には順序が重要となり、途中段階を失敗するとそれ以降の実施ができない。

ハッピーエコライフコーナー

～冬こそ『ほっとこ鍋』～

おでんに、煮物、カレーにポトフ…暖かいメニューが恋しい季節になりました。

ママにも地球にもやさしい煮物の調理法、「ほっとこ鍋」のご紹介。

煮物の材料と調味料を鍋に入れ、具材によって５～１５分程度沸騰させ、火から下ろしたらふたを取らずにそのままバスタオルや毛布にくるみ、風呂敷で包みます。さらに２０～３０分、待ってる（ほおっておく）間にゆっくり味もしみこみ、火もとおり、仕上げはふたを取って余分な汁気を飛ばせばＯＫ。

若生和江

◇ 編集委員の独り言 ◇

秋になったと思ったら、もう初雪が降りました。私は春と秋が好きです。もう少し秋を楽しみたかったです。

地球温暖化になると、春と秋が短くなるのでしょうかね？　　寂しいです。

温暖化の前に、何かをしなければと思いつつ行動力が足りなくて「めぐみネット」の行事などにも欠席が多くなりました。農作業も落ち着いて来たので、少しは活動を開始しなければと反省です。

皆さんに迷惑をかけどうしの日々ですが、今後ともよろしくお願いします。

岩渕一夫

事務局　奥州市水沢区大手町一丁目１番地　　奥州市役所市民環境部生活環境課内
電話　0197-24-2111 ／ ﾌｧｯｸｽ　0197-51-2374 ／ ﾒｰﾙ　seikatsu@city.oshu.iwate.jp
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ　http://www.city.oshu.iwate.jp/htm/kankyou/osyu_siminkaigi.html